

1年「SS 基幹探究」探究基礎Ⅰの取り組み

◇期 間： 4月～6月 基幹探究の時間(4コマ×5教科の20時間)

◇場 所： 各教室、図書室等

◇参加者： 1学年 探究科学科 80名

1年探究科学科では少人数構成で、数学、理科、英語、国語、地歴の各教科2名の先生方によるチーム・ティーチングの授業が行われました。クラス、男女混合の16名で各教科の授業に参加しました。この「SS 基幹探究」探究基礎Ⅰでは、今後の探究活動で必要となる読み解く力の育成を目標として、グラフ、表、データなどの資料を含むテキストを使った授業が行われました。

例えば国語科の授業では、『羅生門』とその原作となる『今昔物語集』について、16人を4つのグループに分け、討論を重ねながら本文の読解を行いました。またグループごとにたどり着いた考えをさらにチーム内で共有し考えを深めました。グループごとにたどり着いた結論には差異があり、とても興味深いものでした。また、『今昔物語集』の古文読解は言語文化の授業で得た知識を存分に生かして行うことができました。

数学科の授業では「自然数の n 乗の和の法則を考える」ことに取り組みました。この授業はグループに分かれ、データを収集する、法則性を見出す、証明する、発表するという、探究活動の基本の流れに沿って行われました。この活動では、情報収集力や分析力などを身に付けることができました。

英語、地歴、理科の活動でもグループで話し合いながら普段の授業とは異なるテーマの資料を読み解いていきました。どの授業も主体的に取り組むことができました。

私はこの「SS 基幹探究」を通して探究活動の基礎能力、読解力だけでなく、情報収集力や表現力などを大きく成長させることができたと感じます。さらに、グループ活動を行うことで自分の考えを他人にわかりやすく伝えるにはどうすればよいのか、グループ内で考えを深めるためには自分はどうのように意見を出せばよいかなど考えるようになりました。この活動で得た力を次の探究基礎Ⅱやこれからの探究的な活動に生かしていきたいです。

